

はじめに

自家用操縦士(滑空機上級)受験のための学科

自家用実技試験課目実施要領準拠(操縦士実地試験実施基準・細則 滑空機)
日本学生航空連盟「2009年指定養成資料」を基に、加盟校資料にて補完して原案作成
2011年6月 日本学生航空連盟指定養成のための教材として再編集
最終改定 2022年5月

自家用学科教育

目的:パイロットとしての基本知識、機長として自分の判断で安全に飛ぶために必要な知識と技術を身につける。

指定養成施設の基準による学科科目は:

1. 運航に必要な知識
 - 1-1 一般航空知識 (1.0時間)
 - 1-2 航空機の性能、運用限界等 (1.0時間)
 2. 飛行前作業
 - 2-1 証明書、書類 (0.5時間)
 - 2-2 重量、重心位置 (0.5時間)
 - 2-3 航空情報 (1.0時間)
 - 2-4 気象情報 (1.0時間)
 - 2-5 組立て、飛行前点検 (1.5時間)
 3. 操縦法及び緊急処置 (1.5時間)
 4. 航空衛生 (1.0時間)
 5. 試験(口述) (1.0時間)
- 計10時間

教材の構成

<u>学科課目</u>	<u>使用教材</u>
1 運航に必要な知識	1-1 一般航空知識、航空法規、有視界飛行諸規則、滑空場概要と特性、搜索救難の規則
2 飛行前作業の概要	1-2 航空機の性能と運用限界等 機長の出発前の確認チェックリストの活用
2-1 証明書、書類	2-1 航空機諸証明書、航空日誌の有効性確認 飛行日誌などによる航空機整備状況の確認
2-2 重量、重心位置	2-2 使用滑空機の重量・重心位置表の使用
2-3 航空情報	2-3 必要な航空情報の入手、飛行空域の関連事項 確認、航空図(チャート)の知識
2-4 気象情報	2-4 運航に関わる地域、時刻の気象情報入手 使用空域の天候の実況と予報
2-5 滑空機の組立、飛行前点検	2-5 滑空機の組立分解要領、チェックリスト使用方法、 使用機の点検、バラストや積載物の安全性 離脱装置、曳航策とその安全装置 曳航者との打ち合わせ容量
3 操縦法緊急処置	3-1 自家用実技課目
4 航空衛生	3-2 サーマルソアリング要領 4-1 航空医学一般と応急処置・救急法 4-2 人間の能力限界、見張りと衝突回避

その他のそろえるべき教材

- 学連グライダースポーツ手帳
- 航空法
- AIM-J最新版
- TCAチャート
- AIP (AIS-Japanのユーザー登録)
 - NOTAM
- 気象情報
 - 気象庁ASUS 過去、現在、予測
 - 高層天気図 850hp
- 使用する機体の飛行規程(コピー)